

植物防疫情報第5号

平成28年6月29日
岡山県病害虫防除所
岡山県植物防疫協会

ブドウべと病の防除を徹底してください

岡山県病害虫防除所の県予察圃場におけるブドウ（ネオマスカット）べと病の初発生は、平年（6月20日）よりやや早い6月15日に認められ、また、6月22日の県南部巡回調査では、発病程度は低いものの、ブドウべと病の**発生圃場率が81.8%と平年(6.0%)より高くなっています。**

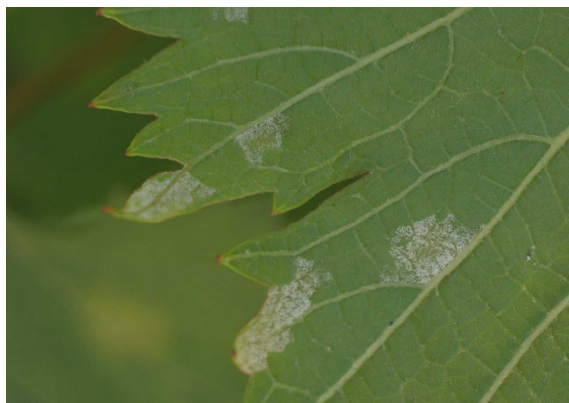
広島地方気象台による向こう1か月の予報（6月23日発表）によると、気温はほぼ平年並、降水量は多いとされており、降雨が続くと急速に発病程度が高まる恐れがあります。薬剤防除は予防散布が重要なので、**圃場をよく観察し、防除を徹底してください。**

(防除上の参考事項)

- (1) 本病原菌は落葉した被害葉で越冬して第一次伝染源となり、5～6月の降雨時に病原菌が風雨ではね上げられて葉裏の気孔から侵入して発病する。その後、発病葉から病原菌が飛散して二次伝染する。感染後、発病までの潜伏期間は約7日である。
- (2) **袋掛け後の無機銅剤（ボルドー液など）の散布（ムラなく散布）は有効な防除対策**である。
- (3) ストロビルリン系殺菌剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル、ホライズンドライフロアブル）を使用したにもかかわらず、べと病の発生が多い圃場では、耐性菌の発生が疑われるので他系統の殺菌剤を使用する。
- (4) 農薬の使用にあたっては、果実の果粉溶脱に対する注意や収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等への農薬飛散防止対策をとる。



‘ピオーネ’の葉表の症状



葉裏のべと病菌（白いカビ）



幼果（小豆大期）の症状



幼果（大豆大期）の症状

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

